

第九四回 日本医史学会 総会演題目次

会長講演

概説・日本における臨床検査機器発達史 — 人間と機械のはざままで — 寺畑喜朔 (1)

シンポジウム (一) 蘭医長崎浩齋生誕一九五五年を記念して

長崎浩齋 — 人と業績 津田進三 (8)

大槻玄沢と長崎浩齋 — 蘭学、その江戸と北陸 — 片桐一男 (11)

長崎家収蔵の『方意便蒙』について — 越中高岡神農講の記録 — 正橋剛二 (12)

シンポジウム (二) 医学教育における医史学のあり方と使命

医学史教育を模索して 蔵方宏昌 (14)

医学愛好家を育てるために 大村敏郎 (16)

医学教育における医史学の現状と将来のあり方 松木明知 (19)

ヨーロッパの医史学教育 石田純郎 (21)

一般口演

1 中国医学と道教 (Ⅻ『紅樓夢』から) 吉元昭治 (23)

2 中国の古典医書にみられる医者の身分と治療について 山本徳子 (25)

3 三卷本『本草集注』と出土史料 真柳誠 (26)

4 『活幼口議』の著者について 王 鉄策・真柳誠・小曾戸洋 (28)

5 仏典と『スシュルタ本集』にみられる看護 杉田暉道 (30)

6 和丹両流の家格について 奥富敬之 (32)

7 半井本『医心方』の病名仮名訓 岩井佑泉 (34)

8 『玉葉』に表れる口歯の医療について 戸出一郎 (36)

- 9 初代曲直瀬道三とらい遣伝説について……………横田則子…(38)
- 10 日本における臍風の記載について……………広田暉子…(40)
- 11 南北朝の医家徐氏の系譜……………猪飼祥夫…(42)
- 12 江戸時代按摩手技の文献的考察
……………鈴木英征・青木隆明・戸野吉浩・原田和江・広門靖正・濱田淳・長尾栄一…(44)
- 13 徳川綱吉の行った医官に対する勤務評定……………中西淳朗…(46)
- 14 『紅夷流道具集解総図式』成立へのスクルテタスの外科書とバレ外科全集の影響……………蒲原宏…(48)
- 15 Nils Rosén von RosensteinとJohann Andreas Murray — 一冊の小児科書をめぐって
……………深瀬泰旦…(51)
- 16 華岡門難波抱節らの蒙汗薬(麻薬)の使用について……………中山沃…(53)
- 17 華岡青洲の「春林軒」入門者について — とくに文化二年度の入門者0人の謎……………松木明知…(55)
- 18 河口良庵著(寛文十庚戌歲)『阿蘭陀語』本に就いて……………川島恂二…(56)
- 19 『蘭学事始』と『蘭東事始』……………片桐一男…(58)
- 20 適塾に学んだ広島県北出身の先人たち……………江川義雄…(60)
- 21 坪井芳洲筆島津斉彬容体書の史料について……………泉彪之助…(62)
- 22 『米利堅平本常用方』中に現れる人物の特定について……………高安伸子…(64)
- 23 我国の眼科文献集 — 第一報……………奥沢康正…(66)
- 24 ロシア帝国軍医・関余作のロシア通信……………大西泰久…(68)
- 25 戦前合州国に留学した精神病学者 — 松原三郎、齋藤玉男、石田昇ほか……………岡田靖雄…(70)
- 26 本邦最初の西洋助産術教師 マティルダ・エアトン……………石原力…(72)
- 27 日本最古の産婦人科専書……………小曾戸洋…(74)
- 28 小島原泰民とその訳(著)書……………谷津三雄・渋谷鉦…(76)
- 29 関場不二彦の事蹟(二) — 愛知医専赴任事件に関する新資料 —

30	維新を生きた村医者の生涯	——津下精齊の場合——	吉田 信・島田保久・津田晴美・犬山征夫・松木明知	(78)
31	山下門内兵隊假病院について		津下 健哉	(79)
32	長谷川泰と「脚気病院」		黒 澤 嘉 幸	(82)
33	石川県富山病院・同医学所の医師について		唐 沢 信 安	(83)
34	中国古来の「医学保健体操的導引」にみる系統的解釈について		赤祖父 一 知	(86)
35	呪禁師の実態	——律令制下の呪術医療者——	坂本秀治・市川太郎	(88)
36	大阪における薬学校の始まり	大阪大学薬学部・大阪薬学専門学校・大阪薬科大学	中 室 嘉 祐	(92)
37	第三高等中学校医学部講義(第三報)		大 滝 紀 雄	(94)
38	下山順一郎訳柴田承桂校補『検尿法』(明治十四年)及び原著について		会 田 恵	(96)
39	日清・日露戦役時の恩賜の義肢	——松山俘虜收容所を中心に——	石 原 理 年	(98)
40	大隈重信の義足	——その原因と生活——	坪 井 良 子	(100)
41	遠藤培地の創製者・遠藤 滋		土 屋 重 朗	(102)
42	新聞に見る昭和25年のシラス中毒事件	——腸炎ヒプリオ発見の端緒——	長門谷洋治・坂上俊之	(104)
43	日本人による最初のX線写真について		天 野 良 平	(107)
44	工具による振動障害の歴史		三 浦 豊 彦	(108)
45	近代日本における社会衛生学理論		瀧 澤 利 行	(110)
46	明石博高にみる「衛生」政策		小 野 尚 香	(112)
47	結核外科における肋膜外合成樹脂充填術		藤倉一郎・藤倉知子	(114)
48	北陸における医学検査技術者教育に関する医史学的考察		谷 島 清 郎	(116)

発表日時

会長講演・シンポジウム(一) および1~23

平成五年五月十五日(土)

シンポジウム(二) および24~48

五月十六日(日)

《本号の表紙絵》

日本で最初に刊行された『醫療器械圖譜』

かねてより医科器械に関心があり、図録などを蒐集してきた。その中に日本で最初に出版された『醫療器械圖譜』(明治11年)がある。松本市左衛門の編輯発行、131頁の洋装本で外科用治療器械が中心で、診断関係は僅少。中表紙は凝った図案で精緻である。表紙の図はその下半分で、図柄の店頭に「各國藥品問屋」「醫療器械舖」「特許阿片賣捌所」の3枚の看板があり、馬車、人力車、洋装・和装の通行人など興味豊かな図版である。

(寺 畑 喜 朔)